

## 宇宙戦略基金（第二期）実施方針に関する主な有識者コメント

宇宙戦略基金（第二期）の実施方針（文部科学省分）に関して、宇宙開発利用部会（第94回、令和7年2月5日）の後、部会委員より頂いた主なコメント及び本検討会構成員より事前に頂いた主なコメントは以下の通り。

### 【総論】

- 採択時1社応札にならないような工夫や、新規参入を促すための工夫が必要。
- 出来るだけ軌道上実証までを含めた形での支援とすべき。

### 【輸送関係】

- 射場には様々な取組やノウハウが必要であり、こうした知見の提供や技術の蓄積といった地道な内容を取りこぼさないようにすることが重要。

### 【衛星関係】

- 第二期衛星分野のテーマ間でフィードバックが行われ、技術課題が同定できると良い。

### 【軌道上サービス関係】

- 本分野は特に、事業者に対して技術実証からビジネスに接続するための計画や戦略（ニーズの具体的分析、アプリケーションがどれくらいあるのか等）をしっかりと問うべき。

### 【地球低軌道利用関係】

- データセンターの構築による事業化には、インターフェースやGUIの規格統一、セキュリティといった使い勝手の良さが重要。サービスとしての付加価値を考えてほしい。

### 【月面開発関係】

- 月への輸送システムについては特に商業化に向けたアンカーテナントが重要であり、実施方針においてシグナリングすべき。

### 【分野共通関係】

- 非宇宙の方には宇宙にまつわる基礎的な知識や知見が不足している場合もあることから、申請段階で検討違いの提案にならないような工夫があっても良いのではないかと。

### 【その他】

- 放射線試験設備の利用は多くの事業者のボトルネックとなってきた。
- 今後の検討として、宇宙空間での有人活動等も想定したサステナビリティに係る取組があると良い。